

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員で意見を出し合い、新しい理念をつくりあげている。	玄関や各ユニットの入口に、理念を掲げている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員全員で作らせた理念なので、各自が意識して実践している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会の実施や地域運営推進会議などの開催時に、ご理解いただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ふれあい喫茶や夏祭りなどゲームの行事に参加していただいたり、玄関先に花を植えるなどして立ち寄りやすく、明るい雰囲気づくりを心掛けている。	月一回ふれあい喫茶を行なっている。近所の方に日時を記入した用紙を配っている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	ふれあい喫茶や学校行事の参加・トライやるウィークの受け入れを行なっている。	プルトップ・ベルマークなど集め、地域の小学校に渡している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>地域包括支援センターとも密に連絡を取り合い、サービスの質の向上につながる情報を得たい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>講習会の参加を促し、職員も理解できるよう努める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待の講習へ行き、その報告を全職員に伝え日々、虐待がおこらないよう注意し、防止に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>新入居時に書類等を参照して頂き、詳細な説明を行ない同意を得ている。</p>	<p>家族・利用者が納得されるまで細かく説明を行っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に職員は個々それぞれの利用者との日常的な会話の中で、今何がしたいか・今後何がしたいかの本音を開けるよう努めている。</p>	<p>利用者に常に話しかけ、困っている事・不満を感じている事など聞くように心掛けている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月初めに家族にあてる一筆箋を書き、近況を知らせている。又、ホーム内にて「すみれだより」を発行している。家族が面会に来られた時に、金銭出納帳を見ていただき、確認のサインを頂いている。</p>	<p>一筆箋に限らず何かあった場合は、すぐに家族に電話をかけ現状の報告を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年一回家族会を開き、運営に関する家族等の意見を聞く機会を設けている。又、家族の面会時には現状報告等を行ない意見を伺っている。</p>	<p>家族会の報告を全職員に伝えている。その中で出た意見に対して、ユニット毎に見直しを行ない、反映できるように努めている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と個人面談を行ない、意見などを聞く機会を設けている。</p>	<p>個人面談の機会をもう少し増やし、職員が何でも話せる場を設けていけるよう取り組みたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に合わせた必要な支援に対する勤務の調整を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係を築いていけるよう、異動はできるだけ行なわないようにしている。家族とも信頼関係にも配慮している。		全職員が全利用者の事を理解できるよう、取り組む必要もあると思われる。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の年間計画は立てている。又、職員個々の技術の向上の為にユニット職員同士で「報」「連」「相」を徹底し、体験的に学んでいる。		外部研修に行った際は、数日内に職員に報告を行なう。技術講習も時間を作っている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他施設での車椅子ダンスに参加したり、身体介護の講習などを行ない職員の育成に役立つ実践的な交流や連携を行なっている。同区内のグループホーム協議会にて、情報交換などが行なわれている。		他施設との交換実習など取り入れ、視野を広げられるような取り組みを行なっていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場全体や各ユニット毎で食事会を行ったりしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場内研修を定期的実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>好きな時に見学に来ていただき、中の様子を見てもらえる。又、利用に至るまでに実態調査を行ない、本人と話す機会を持つようにしている。</p>	<p>必要であれば何度でも見学に来ていただき、不安な事など細かく傾聴している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームに来て相談されたり、実態調査の時に家族からも求めている事などを聞く機会を設けている。</p>	<p>上記同様、施設内の見学及び説明を細かく行なっている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者・ケアマネジャー・家族・本人と共に必要な用件を聞き取り、本人に合った支援策を考えている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>時間があればホームの見学にきていただき、その時に他の利用者と一緒に茶を飲んで頂くなど、コミュニケーションを図り、場の雰囲気に徐々に慣れて頂けるような環境作りを心掛けている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>買い物や外出・役割分担での家事など適宜実施している。</p>	<p>料理の際、味付けなど教えて頂いたり「おばあちゃんの知恵袋」的な事を教わったりしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	年間行事には参加を呼び掛け、共に楽しみ遠足行事の参加も呼び掛け行事に取り組んでいる。		遠足も一緒に出掛け一日を一緒に過ごして頂いたり、ホームの記念行事・クリスマス会などに参加して頂いている。
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	月に一回家族への手紙として、利用者の生活状況をお知らせし、家族には安心して頂けるように努めている。		家族への手紙の中に、忙しいとは思いますが面会に来て欲しい旨など伝えている。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	個々の利用者に馴染みの人の面会が少なく、又馴染みの場所へも行けていない。		定期的に馴染みの人の面会を呼びかけ、馴染みの場所へも行けるように取り組んでいく。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	ユニットにて自席の定着をはかり、顔なじみの関係をつくって頂く事によって、利用者同士が支え合うよう努めている。		ポツリと座っている利用者には職員が間に入り、他利用者と会話できるように橋渡しの役割も行っている。
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	契約が終了すれば疎遠になってしまう。		今後も記念行事などに遠慮なく参加して頂けるような関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプラン作成時には意向を必ず聞き、ニーズの確認を職員ミーティングなどで実践し、把握できるよう努めている。</p>	<p>絶えず利用者の思いを聞けるよう、コミュニケーションをはかっている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居される際、今までに使われていた物・馴染みの物を置き、できるだけご本人の居心地の良い部屋が作れるよう取り組んでいる。</p>	<p>今まで使われてきたタンスや机など持ってきて頂いている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>食事づくりや洗濯・掃除など一人ひとり分担・振り分けできる事を、ご本人から取り組んで頂けるよう努めている。</p>	<p>時には利用者の方々だけで外へ洗濯物を干しに行ってもらったり、違うユニットへ届け物をして頂いている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を伺った上で、その方のニーズとケアのあり方をカンファレンスにて見出し、ケアプランを作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しを行なっている。又、変化があった場合など家族と話し合い・理解を得た上で変更等行なっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは生活記録として、カルテに記入しているが、処遇に関する気づきや工夫などは、現場で話し合い実践しているが、記録としては残っていない。		介護計画用紙の活用や実践した後の結果を記録として残していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院介助や医療連携体制等で支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域運営推進会議の開催などによる民生委員の参加や、トライやるウィークの受け入れ・学校行事への参加・消防訓練など実施している。		行事のときなどボランティアに参加して頂いたり、消防署の方から当ホームへ火災報知機などの説明にきて頂いている。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のユニットの利用者が他施設のデイケアを利用されており、今後も必要に応じて他のサービスの利用を考慮したい。		個々の必要に応じ、支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて情報や指導をいただいている。又、ホームからも行事への参加をお願いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりの、かかりつけ医院への通院を変更することなく継続して頂いている。		本人・家族の意向により、取り組んでいる。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、認知症専門医療機関に通院者がおり、ネットワークは保っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制の訪問看護サービスを受け入れており、常時相談できるようにしている。		月2回の訪問看護で全員の健康管理を支援しており、常に連絡できる態勢を整えている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームより他利用者と一緒に面会に行き、励ましの言葉かけをしたり、状態を聞いている。		系列病院に入院されている方は、常に病院関係者と連絡がとれている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族等と話し合う場を持っており状態に応じて、転床かターミナルケアを行なう方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間体制の訪問看護サービスを受け、常に健康管理や急変時に対応できるよう、話し合いの場を設けている。		終末期ケアに対する職員への研修を増やし、対応していけるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事前にその場所の下見を一緒に行ったり、情報を利用者に伝え住み替えによる環境の変化・ダメージを防ぐ事に努めている。</p>		<p>左記のように下見に行ったり、住み替えの時は馴染みのある物を持って行って頂いている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りを尊重し、言葉の内容や語調等が利用者を傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならないよう日常的な確認と改善に取り組んでいる。</p>		<p>個人情報の取り扱いには十分注意している。又、利用者に対する言葉かけも常に心掛けている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の声掛けの中で本人のしたい事や行きたい所をさりげなく聞き出し実践している。又、個々それぞれの理解力に合わせて役割分担を決め、家事などを手伝ってもらっている。職員は常に一方的な声掛けではなく、どうするのか？どうしたいのか？自分で判断してもらうように心掛けている。</p>		<p>左記同様、職員が一方的に問うのではなく、利用者が決定できるよう支援し、コミュニケーションをはかっている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>外に出たい利用者や臥床したい利用者など、個々の利用者の今のニーズに対応できるよう、職員同士で取り組んでいる。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みのある美容院への外出や化粧をするなど、利用者自身で自然に行なっている。</p>		<p>日頃、お化粧などされていない利用者に対しても本人希望を伺うなど、お化粧やおしゃれの機会を持って頂く。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>利用者自ら、足の不自由な利用者へ配膳して下さったり、おかずのとりわけ・他ユニットへ届けて下さる。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>アルコール中毒などでない人には、誕生日の時ビールなど飲みたいと言われた時にコップ1杯ぐらい飲ませてあげたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>一人ひとりの希望にそった、入浴支援ができるよう取り組んでいく。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>居室の温度調節を行ったり、夜間に関しては眠前薬を服用されている。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>ボランティアの方に月1回程度来て頂いて、絵・手紙・カラオケ・書道等を楽しむ機会を持っていただく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちのお小遣いを所持して頂いているも、お金を使う事への関心がうすい。外出時に喫茶店に寄ったり、日用消耗品や必需品を買いに行く楽しみを持てるよう支援したい。		買い物の機会を増やし、自発的に買い物がしたくなる気分に持っていけるよう努めている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブ・散歩などできるだけ希望に沿って戸外に出掛ける支援を行なっている。		駐車場内の散歩や近くの公園などへ出掛けたり、ドライブに行ったりしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週日曜日を外出の日と決めて、利用者の行きたい所などへ出かける支援を実施している。		春・秋の遠足などでも少し遠出をしたりしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしてあげて下さいと声をかけたり、季節のお便りを出していただくよう支援している。利用者の希望があれば、いつでも電話をかけられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	曜日・日時は問わず、いつでも受け入れる体制ができています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の部内研修を行ない、皆が理解できるよう取り組んでいる。		身体拘束の研修に行った職員が、ホーム内にて再度講習を行ない周知徹底を行なっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	終日、居室や玄関の鍵は開錠しており、いつでも戸外にでれるようにしている。玄関正面にセンサーを設置し、誰が出入りをしているかを把握できるよう取り組んでいる。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にいる時や入浴中など職員は利用者の行動を意識している。夜間においては定時巡回などで居室へ訪室し所在確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	仏壇にて使用するローソクの点火物は、職員にて保管し、ハサミや針なども預かっている。		ライター等は火災を招く恐れがある為、継続して保管するが、ハサミや針・爪切りなどの品物は、個々の利用者のレベルに合わせて今後自己管理して頂く。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を設置、事故防止委員指導のもと、定期的に講習会を開催する予定。		月一回、事故報告書の見直しを行なうよう取り組みを始めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一回、救命救急士講座をうける。		応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なう。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難訓練の実施を予定しており、災害時に備えているが、地域の人々の協力は得られていない。		地域住民への協力の依頼や定期的に避難訓練の実施を行なう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事例として、脳梗塞や転倒などの防止として水分補給や居室内の間取りを工夫し、家族の了承を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも気になる体調の変化が見られた際、声掛けやバイタル測定を行ない、早期発見に努めている。		特に気になる場合はすぐに訪問看護へ連絡し、指示を仰ぎ対応している。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤指導を受け処方箋を確認し、服薬時には名前と顔を確認し利用者の側に行き、服薬を見守っている。		気になる場合は直接薬剤師に連絡し指示を仰いでいる。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操をしていただき、水分摂取を促し、どうしても排便が見られない時は主治医の指示を仰ぎ下剤を服用している。		運動量を増やす工夫をしたり、お腹のマッサージも取り入れている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後利用者の能力に応じて介助や見守りを行ない、口腔内の清潔に努めている。		夜間、義歯を預かりポリドントにて対応している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一回栄養士による一人ひとりの状態に応じた栄養指導を受け、一人ひとりの身体の状態により、食事形態を考慮している。		乳製品・塩分・糖分摂取を控えたり、刻み食にしたり、一人ひとりに合わせて食事の提供を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の為、職員や利用者のうがいや手指消毒をしている。利用者の家族や業者が来られた時もうがいと手指消毒をいただいている。		感染予防キットを用い、各ユニットに常時用意している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、包丁・まな板の消毒をしている。冷蔵庫の温度管理もしている。調理後2時間以内に喫食をしている等、衛生管理には常に気を配っている。		キッチンまわりは常に清潔に保ち、専用のアルコール消毒も行なっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を植えたり、ベンチや椅子を置いてくつろいで頂けるよう工夫している。1F玄関など鍵をかけない対応をしている。		玄関にカギをかけない対応をしてから、家族等から出入りしやすくなったと喜びの意見を頂けるようになった。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	菖蒲湯やゆず湯といった季節感を感じたいただける入浴工夫をしている。置き物や季節の花など玄関や居間に飾り、落ち着いた和やかな雰囲気づくりを心掛けている。		5月には兜、12月にはクリスマスの飾り、正月にはしめ縄など季節の装飾に気をつけている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやミニテーブルを置いて、思い思いにくつろいで頂ける空間を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に以前より使用されてるタンスや机などを持ってきて頂き、居室のレイアウトをして居心地のよい空間を作っている。		ご自身でぬり絵をされたり、カレンダーを作られ飾ったりしている。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け室内の換気を行ない、利用者の体調・健康に応じて室内温度の調節を行なっている。		定期的に居室へ訪室し、室内温度の確認を行なっている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリー対応になっている。又、廊下には両側に手摺を設置し、トイレ・浴室・居室にも数か所手摺を設置している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に入浴日を書いた手作りポスターを掲示したり、翌日の衣類を入れるケースを用意し、自立を助ける工夫を行なっている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	玄関先にはテーブルや椅子・ベンチを用意し、くつろげる環境を作っている。又、中庭にも喫茶や園芸などができるスペースを設けている。		中庭では花や野菜を育てている。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

チームの理念として毎週日曜日に必ずどなたかの外出を行なっている。全員が月に一度は外出できるよう・同じ人が重ならないように又、色々な人と関わられるように外出される方を考えている。ユニットに居られる方とはコミュニケーションをとるようできるだけ職員から話しかけ、ポツンと一人ぼっちにならないよう心掛けている。又、利用者同士が会話できるよう仲介も心掛けている。